

イベントレポート

JATS-NEXT annual conference

会期：2024年1月27日

会場：大阪ナレッジキャピタル カンファレンスルームタワーC 8階

開催の目的：

1. 人材育成のためのプロジェクトの企画立案、実行
2. 心臓、呼吸器、食道3領域の横断的セッションの開催
3. 外科医の意見集約

上記目標を掲げた JATS-NEXT によるこれまでに無い学会、カンファレンスの形を模索しつつ開催された。

会の目的であるが、若手、次世代のリーダーを育成すべく、さらに胸部外科領域を横断する内容で、学会や、総会ではできないであろうセッションを行い、より将来性のある魅力的な胸部外科を発信したいというものである。

運営について：JATS-NEXT 委員、コアメンバーの食道外科、呼吸器外科、心臓外科医で共同し、会長も不在という中、試行錯誤しながら準備を進め、開催することができた。

宣伝方法は SNS (X)、胸部外科学会メーリングリスト、メディカルノートからの発信などで広報を行い、参加登録への広報、周知を行った。また、Docquity アプリを用いて会期中もライブ配信や、アンケート機能を利用し、聴講者参加型のセッションも入れるという形も模索した。

会場は1フロア貸し切りで、3会場での運用とした。協賛企業26社、うち、モーニングセミナー1、ランチョンセミナー3、イブニングセミナー1と多くの企業の協賛を得た。特別講演、スピーチコンテストを除き、演題数140以上と多くの演題登録を頂き、e-posterにも14演題の登録を頂いた。

学会の内容：

当日の参加者目標は350名程度であったが、それには及ばないものの、会場の盛り上がりは十分に活気あふれるものであった。うち、当日の Docquity アプリへの参加登録者は85名であった。特別講演には芦屋市高島峻輔市長をお呼びし、ご講演いただいた。いかにその若さで市長を志し、芦屋市のリーダーとなった後の話や、街づくりのビジョンを、希望にあふれる眼差しで語って頂いた。そのほか、胸部外科三領域が参加する学会ならではの、領域横断での高難度手術や、解剖講義、トラブルシューティング、マイテクニク、他領域に学ぶ低侵襲自慢、拘りの手術器具を披露するセッションなど一般演題とは思えない、とても興味深い内容で、最新のトレンドやベストプラクティスに関する洞察が得られた。また、我々中間管理職的な役割を担う事が多い、JATS-NEXT 世代が直面する問題である、「キャリアについて」「座長・査読のコツ」「タスクシフト」「胸部外科離れを食い止めるために考える」「胸部外科をプロモーションするビデオ」といった、学会ではあまり語れない内容で、さまざま

なトピックについて情報交換を行い、胸部外科領域の発展とプロモーションに向けた新たなアイデアや戦略を共有でき、会場は活気にあふれていた。

スピーチコンテストには思いのほか、多くの応募をいただき、18 タイトルのスピーチを披露いただいた。Docquity アプリを用いてライブ配信を行い、聴講者も多く、現在皆が抱えるトピックや、個人的な考え、イベント、人生等について情熱的で洞察に富んだスピーチを披露してくれ、盛り上がる内容となった。若手から指導医クラスの先生方まで同じステージで、スピーチを披露いただき、若手の先生のスピーチには、驚嘆させられるものもあり、胸部外科の明るい未来を描くことができた。Docquity アプリ視聴者および、会場の全員の審査の結果、「今こそ立ち上がれ 胸部外科医たちよ」と題して語った、国立病院機構 埼玉病院 心臓血管外科の配島功成先生が最優秀賞を受賞された。

最後に JATS-NEXT 委員会の新浪委員長より、本学会の感想を頂き、本会は幕を閉じた。

本会は、今後も新たなアイデアや技術、知識を共有し、将来の展望に向けた協力とイノベーションを促進する重要なプラットフォームとなるべく発展していく所存である。



高島市長のご講演



高島市長、澤前理事長、千田理事長、新浪 JATS-NEXT 委員長、JATS-NEXT 委員、メディカルノート井上社長



領域横断で挑む高難度手術 セッション風景



会を終えて、JATS-NEXT プログラム委員